

ダリア

作付面積が5.2haと拡大しているものの、コロナ禍による需要の減少や7月の長雨・大雨による湿害の影響、8月から9月にかけての高温による出荷時期のずれ込み、生育停滞などの影響が発生しました。販売実績は出荷数量21万本、販売額3,180万円となり、コロナ禍の影響を打破するために、各関係機関を通じて需要拡大に向けた取り組みやメディアへの露出も多かったため、安定した単価で推移したとともに、次年度への需要拡大にも繋がりました。



8月26日(水) ダリア目揃え会

菊

今年度は、6月下旬から7月上旬にかけて降雨が続いたことにより、白さび病の発生が多く、収量と品質に大きく影響しました。販売面では新型コロナウイルスの影響が懸念されていましたが、極端な価格の暴落はなく、比較的安定した単価で推移しました。暑さによって出荷時期が前倒しになる圃場も見られるなか、需要期に合わせた出荷に努め、販売額は2億185万円、出荷数量は424万本に上りました。



9月3日(木) 露地栽培圃場(男鹿市船越)

令和2年度の農業を振り返る

稲作

令和2年産の秋田中央地区の作況指数は「105」のやや良となりました。また、1等米比率は倒伏や登熟期での高温の影響を受け、90.9%となりました。各生育ステージでの生育状況を振り返ります。

播種～育苗期

本年の播種作業は平年同様の4月上旬から始まり、始期の盛期は20日頃となりました。播種後は低温で推移したため高温による障害が少なく、苗の生育はおおむね順調に進みましたが、一部では寒暖差の影響で、カビの発生、出芽や生育のムラなどが散見されました。「苗立ち枯れ病」や「ばか苗病」の発生は、多く見られませんでした。

耕起作業については、降雪は少なかったものの、4月の降雨などで圃場が乾かずに柔らかい状態になり、作業に苦戦するところも見受けられました。



田植え～生育初期

管内での田植えは5月20日頃に最盛期を迎え、平年並みのスタートとなりました。19日頃に沿岸部では強風や大雨に見舞われ、平均気温が11℃と低下したことから一時田植えを見合わせた方がいたほか、活着が遅れる心配がありました。下旬からは好天が続いたため活着が進み、生育が回復しました。表層剥離の影響もあり、茎数不足や雑草の動きに対応できない圃場が一部で発生し、残草が目立つ箇所も見られました。

生育中期～出穂期

茎数は、好天によって平年並みまで回復する圃場が多く見られましたが、長雨が続いて7月から8月上旬にかけて日照時間が少なく曇天や降雨日が多かったことにより、基肥が急激に吸収され、葉色が濃く葉長も長めで推移しました。降雨が続いたため中干しが十分に行えず、茎が柔らかいまま生育する圃場が多く見受けられました。

出穂はあきたこまちでは7月30日前後の圃場が多く、平年より2～3日早い状態となりました。また、各圃場でももち病が発生し、隣接する圃場に感染して穂もち病が多発する事態となりました。

